

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第30号 2006年3月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2006年 新年会 盛大に開催

2006年1月9日(月・成人の日)こまばエミナースにおいて目黒稲門会新年会が盛大に開催された。参加者は来賓を含めて78名となり、和気藹々のうちにも活気に溢れた新年会となった。

第一部講演会は、中上美代子幹事司会により、先ず加藤会長の新年の挨拶に続いて講師・粕谷一希氏のプロフィールの紹介があり、「帝国日本の興亡―日露戦争からわずか約40年で、なぜ日本は滅びたのか―」と題するお話を伺った。

講演要旨は以下の通りであったが、参加会員には戦中派が多くじっと聞き入る姿が目についた。

粕谷氏は①沖縄戦で死地に赴く日本陸海軍将兵の死に様は武士の末裔で見事。②日本社会の体制崩壊は早く、ペリー来航から幕府崩壊まで15年、満州帝国は成立から15年で日本帝国と共に崩壊した。と指摘された上で、本題の「なぜ日本は滅びたのか」については次の様に話された。

日本は日露戦争の結果南満州鉄道をロシアから譲渡され、明治39年に南満州鉄道(株)を設立して経営を始めたが、正にその時から国策の運営を間違えた。満州に権益を持ったことが日本の命取りになった。人も国も成功が失敗の原因になる。南満州鉄道維持のためには職員を含めた在留邦人の安全性確保が必要なので関東軍を派遣した。その関東軍が東京の中樞の言うことを聞かなくなり、満州事変、日中事変を起こして第二次世界大戦へと拡大し、日本帝国の滅亡へと繋がった。等々興味深いお話であった。

次に、石川智子幹事司会により第二部懇親会が開かれた。先ず青木英二目黒区長に新年の挨拶を頂いた後、外岡編集長の発声で乾杯。続いて美味しい飲物とご馳走に舌鼓を打ちながら歓談し、楽しい時を過ごした。途中海口カラオケ部会長司会により加藤会長ほか数人の競演で会は一層盛り上った。

続いて土川副幹事長が各テーブルを巡回し、初参加の会員並びに新入会員計11名の方々を紹介し、

ご挨拶を頂いた。その内の一人「狂言師」善竹十郎氏が飛入りで登壇、「やんややんや」の祝い節で座はなお一層盛り上った。更に同伴ご家族の紹介があった後、浅海幹事長より前日のラグビー大学選手権で我が早稲田が連覇した旨の報告があり、“荒ぶる”を熱唱して花を添えた。

終りに、伏見会員のリードで校歌を斉唱、大野副会長による一本締めで閉会となった。



(出席者 五十音順 敬称略)

[来賓] 青木英二、粕谷一希

[会員] 浅海敏之、芦澤哲男ご夫妻、阿部喜久雄ご夫妻、荒瀬修一郎・ご令嬢、有山勇次郎、安藤嘉昭、石井哲之介、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤 悠、井村正陽ご夫妻、海口昭治、大竹一子、大野利幸ご夫妻、大山高明、岡田鍾吾、小野 満、海沼美智子、加藤栄護ご夫妻、川井信義、岸 猛弘、木村昭一、紀本直幸、桑野祐光ご夫妻、郡山弘文、小杉 哲、桜井輝隆、茂山十郎、島田久家、杉山 弘、関 和平、外岡 明ご夫妻、高田 薫、高橋 栄一、高橋圭吾、田島清志、田島順一郎ご夫妻、田畑 繁、千野逸平、土川俊雄、都築秀行、手塚仁雄、田 哲基、永井純一郎、中上美代子、服部尚彦、林田雅敏ご夫妻、樋口定廣、藤岡長世、伏見和則、眞仁田勉ご夫妻、松尾洋一、松岡雅俊、森家一三、保井 正、八幡和三郎、吉田博行ご夫妻、吉本政治、渡辺明久、渡辺三郎ご夫妻、松田哲也

(島田 記)

初参加者・新入会員の紹介

新年会初参加



川井信義氏
昭和32年 政経
スポーツ観戦
ウォーキング



杉山 弘氏
昭和39年 理工
ゴルフ



石井哲之介氏
昭和43年 政経
水泳 ゴルフ

新入会員



吉本政治氏
昭和41年 商 趣味 旅行
新年会はとても楽しかった。会社人間
でしたので人との交流を深めて行きたい。



小杉 哲氏
昭和41年 理工 趣味 旅行・パソコン
知らなくておそかったが入会してよかつた。豊饒の人生をおくりたい。



安藤嘉明氏
昭和42年 法 趣味 登山・ゴルフ・札所巡拝
地域貢献を信条に活動中。稲門会の皆
様との輪をひろげられれば嬉しい。



茂山十郎氏 (善竹十郎)
昭和42年 政経 趣味 麻雀・ゴルフ
ボーリング



高田 薫氏
昭和53年 法 趣味 写真
目黒界隈に興味津々の毎日。楽しい付
き合いが出来れば嬉しい限りです。



高橋圭吾氏
平成元年 理工 趣味 スノーボード
17年振りに校友に会えて感激。母校との
繋がりを深めたかったので好機会だった。



松田哲也氏
平成2年 社会中退 趣味 スポーツ観戦
早稲田で学んだものとして誇りに思え
た瞬間だった。目黒に貢献していきたい。

田中三郎氏
昭和25年 商 趣味 ゴルフ・旅行

安居院文男氏
昭和41年 文 趣味 ゴルフ

リレー随筆

私にとっての早稲田

中西千可子 (昭和51年 一文)

早稲田に入学して今でも一番印象に残っているのは、今は取り壊されてしまった大隈庭園裏の弓道場に初めて足を踏み入れた瞬間でしょう。

春の盛り、柳の大木は新芽をふいて優しく風に揺れ、矢道にはタンポポなどの野草が咲き乱れ、新人勧誘に大騒ぎしている本部の喧噪から遙か遠く離れ、桃源郷に迷い込んだような気持ちになりました。入部してからの厳しい毎日を深く考えもせず、体育局弓道部にお世話になることに決めてしまったのは、ひとえにあの静寂な時間の存在が大きかったと思います。道場はいつも張りつめたような気が漂っていて、身の引き締まる思いがいたしました。

もちろん、毎日の練習は厳しいもので、まったく初心者ばかりの新入生は初歩の初歩から、手取足取り先輩方に教えて頂きました。弓道部は上下関係こそ厳しいですが、いわゆるスパルタ式の鍛錬というのはありませんでした。

ただし、部活動に入るに当たって私には母と約束しなければいけないことがありました。それは、私がほとんど担当していた家事でした。これらの手を抜くことなくやり遂げて初めて部活に参加させてもらえるということで、この誓いを守るため必死の毎日でした。門限も8時ということで、懇親会の時は先輩がわざわざ電話してくださって、少し時間を遅らせてもらいましたが、それにしても手のかかる後輩だったと思います。そんなわけで、いわゆる女子大生の生活とは縁遠くなってしまうしましたが、それなりに充実した毎日でした。

伊勢神宮や明治神宮での射会、各大学での練習試合など下級生は雑用で袴をからげて、走り回ることの方が多かった気がします。観的室で蚊にさされながら「あた〜り」「ねん(残念)」を繰り返した事も懐かしい思い出です。

ただ、残念な事に二年の寒稽古と春合宿の時に風邪をこじらせ肺炎になり、そのまま体調を崩し入院となってしまいました。これはかなり長引き、ついに退部もやむを得ないという結論となりました。家事との両立に無理があったようです。約束は約束ですからあきらめましたが、今でも心から残念に思います。しかし、この思い出のおかげで早稲田は今も「美しい早稲田」として心の中に根付いています。変わらずにおつきあいしている弓道部の皆さんも含め、私の一番美しい早稲田は健在です。

特別寄稿

05年稲門祭ホームカミングデイ式典に出席して

紀本直幸（昭和36年 一法）

2005年10月23日、早稲田大学記念会堂にて開催されたホームカミングデイ式典に、卒業後45年目の校友として招かれ出席した。

式典には卒業後25年、35年、45年、50年目の校友が招待され大勢の出席者で盛会であった。

式の開始を待つ間に、45年前ここ記念会堂での卒業式の当日、大浜信泉総長が卒業生に対する送別の辞の中で述べられたことが記憶に蘇って来た。

大浜総長のお話は次のようであったと思う。

「大学と卒業生の関係を何かに例えるとすれば、それは佛像とその光背の如きものであると思う。この場合、大学は佛像本体であり、卒業生全員が光背である。卒業生各人は光背を形づくる蓮の葉とみればよい。大学は教育研究の場として、自らの価値を高める努力を続けなければならぬことは云うまでもないが、一方毎年各方面に送り出される卒業生が夫々の立場で世間に認められる存在となることがひいては母校の名声を高めることになるのである。つまり、光背が立派になれば佛像本体も光り輝いてみえてくるのである。そのつもりで、諸君はこれから進む先々で努力してほしい。」とおよそこのような趣旨であったと思う。

当日式典では白井克彦総長から、大学の歴史と現状さらに125周年を迎えての新しい取り組みについてのお話があった。永い歴史を通して、大学は着実に発展し、現在も進化し続けていることを実感した。過去数十年をみても、多くの人材を各方面に送り出して来た結果、大浜総長の云われた「光背」のあり様も大きく変って来たことも事実であろう。今日の佛像本体と光背の現状について、大浜総長が生きておられたらどのような評価を下されるであろうかと思いながら記念会堂を後にした。

続いて、当日午後新しく完成した法学部の8号館を見学した。最初に加藤哲夫学部長から120年を超える法学部の歴史就中明治初年の政府による私学（法学部）に対する弾圧下での困難な時代を乗り越えて、さらに戦前戦後の発展期を支えた早稲田出身の教授陣の努力によって今日の状況があることに思いを至すべきとの話があった。新8号館の地下には歴代の教授陣の業績を記した各人ごとのパネルが掲示してある。昭和30年代前半、講義を受けた当時をなつかしく思い起した。

民法民事訴訟法の中村宗雄教授は当時既に民事訴訟

法学会会長などを歴任された最長老であり、講義は円熟した老大家の風格があった。パネルには「裁判は実体法訴訟法総合の場である。」という中村理論が紹介されている。

親族法相続法の外岡茂十郎教授の講義は必ず親族関係の実例に基いて、旧法新法双方の立場から、考察して、立法の趣旨の相違から来る結論を比較して論ずるものであった。

11月平成17年度の司法試験の結果が発表され、早稲田は東大を抜いて、合格者数258名で単独首位になったと報ぜられた。（平成16年は東大と同数で首位。）昭和30年代は中央大学が常にトップの座にあったが、当時に比較して隔世の感がある。

加藤学部長からは法学部の現在千人の定員を七百人程度に減らし、入試の方法も変えるつもりであるとの話があった。大学全体が大きく変りつつある中で、法学部も新たな飛躍の時代を目指しているかにみえる。

（平成17年12月15日 記）

校友会だより

2006年3月22日（水）

東京都23区支部 支部大会

講演会 講師 田原 総一郎氏 に決定！！

ジャーナリスト

早稲田大学 特命教授

早稲田大学「大隈塾」塾頭

日 時 平成18年3月22日（水）18:00～

第一部 講演会

会 場 大隈講堂

講 師 田原 総一郎氏

演 奏 早稲田大学交響楽団

第二部 懇親会 “白井総長を囲んで”

会 場 大隈ガーデンハウス

出 演 早稲田大学 ちんどん研究会

参加費 第一部 無料 第二部 5千円

尚 第一部講演会は、早稲田大学エクステンションセンターとの共催のため、入場無料の一般公開です。



☆「大隈講堂」は、4月より大規模改修工事に入ります。78年間の歴史と先哲の面影を、隅々までご覧下さい。

23区支部担当 大竹 一子

各部会からの報告・案内

美術・歴史鑑賞部会

今回は歴史探訪のバス旅行を楽しみました。12月3日参加者30名は、近代日本地図作製の基礎を築いた「伊能忠敬の生涯」を知るため、観光バスをチャーターして千葉県佐原市を訪問しました。

伊能忠敬記念館で知った忠敬の生涯と、明治の面影を残す佐原の町並みは、初冬の日を感動に満ちたものにしてくれました。昼食は天保2年創業の鰻屋でとり、造り酒屋の見学後には新酒の試飲もあり、多彩な一日になりましたが、午後6時には目黒駅に帰り無事解散になりました。



(参加者 順不同) 敬称略)

阿部喜久雄・雅子、林田雅敏、浅海敏之、渡辺三郎・道子、井村正陽、大竹一子、巖嶋正子、服部尚彦・弘子、佐伯文子、水野弘文・真智子、宇野一郎・恵子、保井 正、島田久家、大野利幸、紀本直幸、森家一三、桑野祐光・順子、伊藤源喜、川井信義、井上雅乃、小野 満・陽子、八幡和三郎・禎子

部会長 八幡和三郎

旅行部会

一春爛漫 みちのく平泉と水沢を訪ねる旅一

今回は、5月7～8日一泊二日の日程で「みちのくの旅」を計画しました。

一日目に藤原3代の栄華の地、平泉と新緑の巖美溪を訪ね宿泊します。

二日目は我々が副会長 八幡さんのご生家にお邪魔するとともに水沢市の史跡を訪ねます。

往復を新幹線、現地では専用バスを利用します。参加人数にもよりますが、一人5万円位の費用を想定しております。

詳しくは、目黒稲門会ホームページ(最終ページの広報HP欄参照)の旅行部会ページをご覧ください。又、ご質問・お申込みは井村(Tel/Fax03-3714-6299)までお願いします。

部会長 井村 正陽

囲碁部会

(1) 今後の日程

平成18年3月 3日(金) 場所 下目黒住区センター

4月 7日(金) 時間 午後1時～5時

5月12日(金)

(2) 第6回オール早稲田囲碁祭

平成18年6月10日(土)

日本棋院市ヶ谷本院

(3) 12月忘年囲碁大会

平成17年12月7日に開催された忘年囲碁大会の優勝者は次の通りでした。参加者12名。

Aクラス 志水 一夫(S36商) 校友会

Bクラス 眞仁田 勉(S28法)

Cクラス 保井 正(S34政経)

忘年会は相撲料理時津洋で高橋栄一氏も参加され政治経済・歴史美術・健康などいつも格調高い蒞臨に皆さんうなずいておりました。

(4) 第1回オール早稲田将棋祭

平成17年11月20日 早大新学生会館

郡山弘文氏(S27商)がBクラスで優勝しました。

部会長 保井 正

カラオケ部会

愛好家の入会も徐々に増えて参りました。

11月11日(金)男性11名女性3名計14名の出席を得て、デュエットと唄の交換等夫々の咽喉に合わせ、申し込み用紙が積まれて来ました。途中休憩もなく、次々と歌い込みますが、時間内に消化しきれず、延長を余儀なくされ、問い合わせましたところ幸い次の予約が入っておらず、3～4曲を残して終了することが出来ました。

店長の配慮により延長分1時間無料サービスとして頂き会費追加なし。

12月9日(金)男性12名女性6名計18名過去最高の出席を得て大変な賑わいの中、折悪しくスクリーンの故障と謂うハプニングに見舞われ延長も予約入りにて是も出来ず、時間にて解散となり、めいめいカラオケの二次会に消えて行きました。

お詫びの印として、2時間無料サービスと相成った次第です。

(小生は老人会の旅行責任者のため前部会長の山口氏に委譲しました。)

今後3ヶ月予定は、3/10(金)4/7(金)5/12(金)です。是非ご参加下さい。

部会長 海口昭治

麻雀部会

(1) 第13回三区連合親善麻雀大会

11月26日(土)渋谷「スリーハンドレッド」に於いて目黒稲門会主催、渋谷・世田谷両区麻雀部会との親善大会が開催されました。目黒は井村氏が準優勝、土方前部会長が3位と健闘しました。

(2) 第24回定例麻雀大会・忘年会

従来の雀荘「西小山クラブ」が廃業となり、今回初めて武蔵小山の「サン」に於いて本年最後の麻雀大会が12月18日(日)16名の参加のもと開催されました。試合前横山氏のカメラで広報用記念写真を撮りスタート。和気藹々の4ゲームを制し優勝したのは児玉氏、準優勝は千野氏、3位は松尾でした。試合後徒歩1分の和民武蔵小山店に於いて忘年会を実施し部会員相互の親睦を一層深めました。なお次回の麻雀大会は5月中旬武蔵小山の「サン」で開催予定です。



部会長 松尾洋一

ゴルフ部会

ゴルフシーズンが間もなくやって来ますが、我が目黒稲門会のゴルフ部会も次第に参加人数が増えております。年に2回行っており、次会は6月初旬に開催する予定です。3月中旬には詳細を決定し案内をお送りします。新規に参加を希望される方が居ましたら是非連絡を下さい。ご家族を含め皆様の参加をお待ちしております。

部会長 大野利幸



会員の広場

第10回美術・歴史鑑賞部会に参加して…

井上 雅乃 (平成3年 法)

去る12月3日、晴天の下、伊能忠敬の故郷を訪ねる一日をご参加の皆様とともに楽しく過ごさせていただきました。朝、千葉県佐原市へと向かうバス内で八幡部会長から「伊能忠敬の生涯と業績について」の講義をしていただくところから始まり、記念館でその実物の地図や道具を見、その後、昔の町並みを残す市内散策と、盛りだくさんの内容でした。最後には少々歩き疲れ、日本全国四千万歩を歩いたという伊能忠敬の気力体力には遠く及ばない自分を実感。その偉業に改めて感服しました。

昼食の鰻、香取神宮のお団子、酒造見学と、おいしいものも盛りだくさん。帰りのバスで開催された本日の感想発表大会(!?)での皆様のお話も、とても興味深いものがありました。

普通のバス旅行では味わえない、アットホームな雰囲気は稲門会の行事ならではのようです。とても素敵な初冬の日でした。

カラオケ部会あれこれ

桑野祐光 (昭和33年 商研)

12月9日の年忘れカラオケ・パーティー……年末でクリスマスが近いため「ホワイト・クリスマス」「忍傷松の廊下」それに「座頭市」の時代劇のうた、「東京ブルース」「伊勢崎町ブルース」とダンス曲、「影を慕いて」「北帰行」などの懐メロ、「椰子の実」の童謡、「愛国の花」「同期の桜」などの軍歌のほか最近の新曲までつぎつぎに披露されました。ここで問題! 加藤榮護、荒瀬修一郎、それに大野幸子各氏が熱唱されたのはどの曲でしょう。会場は定例の学芸大学駅南口から2~3分のコートダジュールの瀟洒なパーティールームで、出席者は男女合せて18名の盛大な会でした。ある月の会では、男6名、女6名の同数なので、籤引で即席のパートナーを定め、お二人でいろいろ相談の上、お好みのデュエット曲を愛唱し合ったこともありました。

いつもは、第2金曜の午後4~7時ですが、参加者多数の場合は時間延長のこともあります。昨年の参加者は男98名、女42名の140名だそうです。

あなたの素敵な18番の曲を是非お聴かせ下さい。

〔空 往 満 帰〕

— 外岡茂十郎の軌跡⑧ —

外 岡 明(昭和26年 理工 電)

Ⅱ. 学生野球に徹する強さ

「優勝の陰にあるもの」として、私たちが見落としていないものに、縁の下の力持ちの役割を担当しているマネージャーがある。部長、監督、寮のパアチャンまでも含めた、広い意味での野球部から信頼されているマネージャーのあることは、野球部の優勝に大きく貢献するもののようである。

例えば、昭和35年秋、早慶六連戦に勝って優勝して合宿へ帰ってきた時、バスから降りたナインが天皇盃を抱く徳武主将を先頭に、人垣をかき分け辛うじて合宿に入ったものの、その合宿までが内も外もファンの歓声がどよめいていて、興奮と熱狂の嵐はいつ果てるとも知れなかった。そうした騒ぎの中で、マネージャーの「祝勝会はいつもの通り制服で、六時三十分講堂に集合」と全員に指示する声が聞こえてくる。

祝勝会では、天皇盃は床の間に飾っておいて、別の連盟盃にビールをなみなみ注いで顧問の飛田さんから、部長、監督、それから上級生、下級生へと順々に飲み廻されていく。優勝の歓喜の中にも節度があって、楽しい談笑のうちに八時過ぎ閉会となった。

ところが、五日後の報知新聞の「スポーツ論壇」に『静かな祝勝会』という見出しで、九州大学の高橋義孝教授が次の様な意見を掲載された。

『早慶戦が終わったあとの本誌の記事に[意外に静かな祝勝会]という見出しのついたのがあった。

《集まったカメラマンが「ユニホーム姿で乾杯のまねだけでも」とマネージャーに交渉したが、「そういうことは“早稲田精神”に反するからできません」とそっけない返事。「学生服を着てから講堂でやりますからどうぞ。だが中には入れませんから、写真を撮るなら外からにして下さい」という言葉に報道関係は怒り、「祝勝会の写真は一切写さない」と申し合わせ、とんだ祝勝会となってしまった》とある。小さな記事ではあったが、見過ごすことのできない記事だと私は思った。俳優や歌手、相撲取りは何ととっても人気商売、従ってカメラマンの注文には喜んで応ずるようだし、また喜んで注文に応じて一向におかしくない。しかし大學の運動選手は人気稼業のプロ選手とは違うから、写真を撮ってもらうための特別のポーズをとる必要はないし、またそういうことをしては、却っ

ておかしいのである。上記の記事を一読すると、報道関係、カメラ関係の方々が腹を立てた気持ちも大いにわかるけれども、“早稲田精神”に反するといってカメラに妥協しなかった学生側の態度は筋が通っていると云わざるを得ない。…』

まことに有難いご教示である。このマネージャーの学生野球に徹する心構えが、選手の日頃の生活に、その練習に、さらには試合の気迫に無関係だと、だれが言い切ることができようか。こうしたマネージャーの存在こそ、早稲田に優勝をもたらした、見えざるプレーでなくてはならない。

⑩-4 平凡なプレーに学ぶ

それは、昭和35年秋史上に残る早慶六連戦(前掲)へともつれ込んだその第一戦の時である。

劣勢を伝えられた早稲田は、5回待望の先取点をあげ、また7回にも二死から3安打を連発して一点を追加した。これに対し、慶応は安藤を打ち悩んで、5回に初安打するまで一人のランナーも出すことができず、8回終るも3安打に抑えられていた。0対2で迎えた慶応9回裏の攻撃は、1番からの好打順であった。

トップから、安打、中飛、2安打と連ねて、1点を返し、一死一・二塁で1点差。一打同点か、逆転か、まことに息が詰まるような緊張した場面になった。このとき次打者は、慶応ファンの期待に応え、快心の一打を放った。球は快音を残して中堅深く飛んで抜くかに見えたが、早稲田の中堅手石黒は好走してこれを捕らえた。二塁ランナー慶応駿足の渡海は、捕球されたと見るや、突如意表をついて三塁へ突進、頭から滑り込んだ。しかし球は、中→遊→三へと送られ渡海は間一髪タッチ・アウト。かくして早稲田は第一戦をものにすることが出来、ここに学生野球史上空前の早慶六連戦への口火を切ることになった。

渡海が三進を狙ったプレーは、必ずしも暴走とはいえない。アウトにはなったが、気迫のこもった一瞬を争うプレーであった。もし、中堅手の返球が一瞬でも遅れていたなら、渡海の足では、三進できたであろうし、勝利への活路を切り開くことにもなるからである。ただ、外野手はランナーのあるときは、速やかに内野手に返球しなければならないという、基本原則を忠実に行った石黒のプレーに敗れただけのことである。

このように、勝敗を左右するものは、難しいプレーを見事にやってのけることではなくて、平凡なプレーを忠実にやってのけることである。

石黒のプレーには、野球技術の問題にとどまらず、人間修行の上にも大きな示唆を与えずにはおかぬものがある。この意味で裁判官や弁護士を志望するからといって、ひねくれた法学の難問を漁って、これに浮き

身をやつすといったような学修態度には、与し得ないものがある。むしろ、法学の基礎的な問題と自ら取り組んで、厳しい鍛錬によって、法学的素養を身につける、これこそ司法試験を受験しようとする人の、行くべき本道でなくてはならない。

私たちは、天才的なプレーは誰にでも出来るという訳にはゆかないが、忠実なプレーは平素の鍛錬によって、誰にでも出来るものであることを思うべきである。かくして学生野球は、私にとって心のふるさとであり、私は心のふるさととしての学生野球に、限らない魅力を感じている。

⑩-5 学生野球の自己反省（顔氏家訓に学ぶ）

昭和25年以来、文部省に保険体育審議会が設置されている。文部大臣の諮問に応じて学校における保険、給食、体育に関する事項を調査審議するのであるが、私もその審議委員に加えられていた時のことである。委員会の済んだ後で、委員や文部省の役人の何人かが残った雑談で、アマチュアリズムの確立といったようなことから、選手の無報酬主義へと話がはずんでいった。選手として何等の恩典にも浴さないところに、アマチュア・スポーツの尊さ、喜びも、麗しさも生まれてくるなどと話し合っていると、突然、一人の委員が「外岡さん、選手でも野球の選手となると、いろいろな特典、例えば合宿などは、ただ（無料）といったようなことになるのではないのでしょうか」と言うのであった。…中略…

私は、世間が学生野球の実情を把握しないで、流言や伝聞を鵜呑みにしようとしていることに、かねがね憤りさえ感じていたものである。安部寮の場合は、合宿費を各自ごとに計算して食堂に掲示し、支払った者から順次消してゆく仕組みになっている。私のこの説明を聞いても、まだ納得のいかぬらしい役人もあった。私は、その人たちに合宿の実情を見せようために、その場から直ちに安部寮に案内した。勿論、突然のことで安部寮には何の連絡もしなかったが、同道した役人も、食堂に張り出されたこの掲示を見て、一そこには墨で黒々と書き出された名前が白墨で消されたものもあるし、未払いで未だ消されていないものもあったが— 流石に納得したようであった。しかし、学生野球の清浄さを汚されたような気持ちは、なかなか消えなかった。…中略…

ところが、数年後のある日、久しぶりに飛田さんを水戸に訪ねる車中のつれづれのままに、桑原武夫氏の「一日一言」を開いてみた。途端に、「顔氏家訓」が目についた。

『人間の足が踏む広さは、僅か数寸に過ぎないのに、一尺ほどもある路で、きまって崖からつまずいて落ちるし、ひと抱えもある丸木橋で、かならず川に落ちて

溺れるというのは、何故か。そのかたわらに余地が無いからである。君子が世に立つて行く場合も、全く同じこと。真実のこもった言葉も、人に信用してもらえず、天地に恥じぬ行いも、人から疑われることもある。みな、自己の言行・名声に余地がないためである。私は人からそしりを受けたとき、いつもこの点について自己反省をした。』とあった。

だから、選手が合宿費を毎月几帳面にちゃんと納めていても、その日常生活にこれを支えるだけの行いがなければ、「そのかたわらに余地がない」ので、疑われたり、中傷されたりすることにもなるというのであろう。自分の日頃の行いに、これを裏付ける数々の行いがあるかどうかを、各自めいめい反省しなくてわならない、というのである。まことに味わうべき言葉である。とこしえに身につけておきたい教えである。それが、飛田さん訪問の途中で得られた教訓だけに、学生野球にとっても、意義ひとしお深いものがあるように思われてならなかった。

（つづく）

三 土 会

会創設以来会場として参りました「鮎八」のご主人が体調不良で入院中のため、当分の間 次の要領で開催いたします。

日 時：毎月第3金曜日午後6時より

会 場：「松喜」

住 所：目黒区下目黒2-20-23 第一高田ビル2F

電 話：03-3490-7060

会 費：4,000円

以上です。奮ってご出席下さい。

世話人 土川 俊雄

HP便り その6

ホームページを活用する一番の方法は、見てくださる方々の声が聞こえてくる事なのです。一番簡単なのは掲示板に書き込みをしてくださることで、会話が発展することなのです。目黒の掲示板は現在、管理人以外は他区の方の書き込みばかりで寂しい限りです。

どうぞ、何も難しい事を考えずに何か語りかけて頂けませんか。日常の何気ない事でも、話題のニュースのことで何でもいいですから、ちょっとお顔を見せてください。本名でもニックネームでもどちらでも大丈夫です。システム上掲示板から直接あなたのアドレスにたどり着くこともありません。安全安心です。

HPをもう一つ活発にするために是非お気軽にトライして頂きたいと心から願っております。

広報HP担当 中西千可子

緊急連絡！！

美術・歴史鑑賞部会では、3月11日（土）に南青山の「根津美術館」を訪ねることを計画しました。赤坂虎屋が所有する「虎屋の雛人形と雛道具」展です。お孫さんの同行も可能な鑑賞会です。詳細・参加ご希望の方は、至急次へご連絡下さい。

☆ 八幡 和三郎： Fax：03-3418-8413 eメール：yahata@mte.biglobe.ne.jp

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧ください、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい 06年1月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲 碁	保井 正		10 数名	500 円	毎月 1 回 (下目黒住区センター)
カラオケ	海口昭治		10 数名	3,000 円 女性 1,000 円	毎月 第二金曜 午後 4 ～ 7 時 (コートダジュール学芸大学店 B1)
グルメ	海沼美智子		20 ～ 30 名	6,000 円～ 10,000 円	年 3 回程度 リーズナブルな金額 と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20 ～ 30 名	25,000 円程度	年 2 回 春秋、バスで送迎 別途 秋に総長杯
ダンス	小川裕正			3,000 円	目下休会中
麻雀	松尾洋一		10 数名	3,000 円	年 4 回 武蔵小山「サン」 他区 稲門会との連合親睦大会 (年 3 回)
美術・歴史鑑賞	八幡和三郎		10 数名	その都度	年数回
旅行	井村正陽		10 ～ 20 名	その都度	年 2 回 春秋
ユース 23	石川智子		数名	5,000 円	年数回 土曜夜 若手・準若手
三土会 (※)	土川俊雄		10 ～ 15 名	5,000 円	毎月 第三土曜 午後 6 ～ 9 時
広報 HP	中西千可子	c メール URL	mcguro@tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/mc96tomon-wasceda/		

(※) 三土会は当面毎月第 3 金曜日午後 6 時～ 9 時

皆様のご寄稿をお待ちしています。

「部会参加感想」・「エッセイ」・「紀行文」・「珍しい話」・「耳よりな話」・「思い出話」・「体験談」・「好奇心を煽る話」・「話題になる話」などなど何でも結構です。どうぞ気軽にお寄せ下さい。

(但し、政治色・宗教色の強いもの、他人のプライバシー・人権に関わるものなどはご遠慮下さい。)

字数：○「会員の広場」400 字～ 800 字 程度

○「特別寄稿」1000 字～ 1500 字 程度
(写真 1 枚 挿入も可)

様式：パソコンで e メール「添付」

又はプリント、手書き

(何れも、横 23 字で行替え願います。)

ご希望あれば、原稿用紙をお送りします。)

原稿締切日：06 年 4/8、7/8、10/7 です。

送り先：表題に記載の事務局 (吉田博行) 宛

e メール：gf-tono@d01.itscom.net (外岡) 宛

編集後記

本会報は、2 月末頃に発送されますが、原稿は 1 月の初旬に締め切りました。従って執筆された方は恐らく 12 月初旬から 1 月第 1 週の一番ご多用の時に筆を執られることになり、大変ご迷惑をお掛けしたことと恐縮しております。

「申・酉 騒いで戌 喰う」これは年頭に交わされた兜町界隈の諺ですが、政府も「デフレを脱却して、国民生活の安定向上の年としたい」と言っておりますので、どうやら今年は緩やかながら景気上昇の年となりそうです。

そこで、我が目黒稲門会もこの機に乗じて、一層諸活動の充実を図り、一人でも多くの仲間を加えて、活力に満ちた楽しい有意義な会にして行かねばなりません。

それには、吾が努めとして「読みたくなる会報」作りに励まねば…。との想いを新たにしました。

(外岡 記)